

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	工学実験Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0054			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	情報工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	4		
教科書/教材							
担当教員	芝 浩二郎						
到達目標							
本科目の受講生は、クロスコンパイラを製作する実験を通して、比較的行数の多いプログラムを開発する能力を身に付けることが求められる。また、プログラムの実行環境に関する理解を深めるとともに、標準的な開発ツールを使いこなせるようになることが求められる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
テキストファイルの入出力プログラムを作成できる。	ファイルの読み込みプログラムが作成できる。ファイルの出力プログラムが作成できる。エラーメッセージを処理できる。			ファイルの読み込みプログラムが作成できる。ファイルの出力プログラムが作成できる。		ファイルの読み込みプログラムが作成できない。	
字句解析器を作成できる。	字句解析機の機能を説明できる。字句解析機の状態遷移図を作成できる。字句解析機の改造ができる。			字句解析機の機能を説明できる。字句解析機の状態遷移図を作成できる。		字句解析機の機能を説明できない。	
構文解析器を作成できる。	構文解析機の機能を説明できる。構文解析機の仕様に基づくプログラムを作成できる。構文解析機のプログラムの改造ができる。			構文解析機の機能を説明できる。構文解析機の仕様に基づくプログラムを作成できる。		構文解析機の機能を説明できない。	
H8用コード生成器を作成できる。	H8用コード生成器の機能を説明できる。H8用コード生成器の仕様に基づくプログラムを作成できる。H8用コード生成器のプログラムの改造ができる。			H8用コード生成器の機能を説明できる。H8用コード生成器の仕様に基づくプログラムを作成できる。		H8用コード生成器の機能を説明できない。	
lexとyaccを使って字句解析器と構文解析器を作成できる。	lexとyacc の機能を説明できる。Yaccによる構文解析機の自動生成ができる。Lexによる字句解析機の自動生成ができる。			lexとyacc の機能を説明できる。Yaccによる構文解析機の自動生成ができる。		lexとyacc の機能を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	ソフトウェア工学においては、プログラミング能力に加えて、プログラムの開発環境とプログラムの実行環境に関する理解が必要である。本科目の受講生は、クロスコンパイラを製作する実験を通して、比較的行数の多いプログラムを開発する能力を身に付けることが求められる。また、プログラムの実行環境に関する理解を深めるとともに、標準的な開発ツールを使いこなせるようになることが求められる。						
授業の進め方・方法	本科目では、機器組み込み型マイクロプロセッサ用のクロスコンパイラを開発する。ハードウェアの構造と動作原理の理解に加えて、言語処理系（3年次通年）と工学実験I（4年次前期）等の知識が必要である。						
注意点	演習を効率よく進めるために演習課題を事前に充分読んでおく必要がある。C言語の修得が不十分な者は復習をしておくこと。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ファイル入出力		テキストファイルの入出力プログラムを作る		
		2週	字句解析		字句解析器を作る		
		3週	字句解析		字句解析器を作る		
		4週	字句解析		字句解析器を作る		
		5週	字句解析		字句解析器を作る		
		6週	構文解析		下向き構文解析器を作る		
		7週	構文解析		下向き構文解析器を作る		
		8週	検討課題1		課題に従ってプログラムを作る		
	4thQ	9週	コード生成		H8用コード生成器を作る		
		10週	コード生成		H8用コード生成器を作る		
		11週	ダウンロード実験		サンプルプログラムを実機で動かせる		
		12週	機能追加		関数と配列の機能を追加できる		
		13週	自動生成		lexとyaccを使って字句解析器と構文解析器を作る		
		14週	検討課題2		課題に従ってプログラムを作る		
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	レポート		検討課題		態度		合計
総合評価割合	60		40		0		100
専門的能力	60		40		0～-40		100